

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：32612

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0054

研究課題名（和文）キリシタン時代におけるルネサンス人文主義の影響についての実証的・基礎的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）An Empirical and Fundamental Study on the Influence of Renaissance Humanism in Kirishitan Era in Japan (Fostering Joint International Research)

研究代表者

折井 善果 (ORII, Yoshimi)

慶應義塾大学・法学部（日吉）・准教授

研究者番号：80453869

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,400,000円

渡航期間：24ヶ月

研究成果の概要（和文）：海外（主にスペインと中国）での国際共同研究の遂行を通じて、「日本におけるキリスト教の世紀」における人文主義の影響についての実証的・基礎的研究は大いに進展した。マドリードと広州でおこなった二つの国際会議の開催、両国における複数の学会への参加、東京における国際ワークショップへの招聘に応じるなどした。加えて、中山大學、広東外語外資大學において学部生および大学院生へむけたレクチャーも行った。世界的なパンデミックの影響により本研究課題を締めくくる編著の刊行は数か月延期されており、スペインの印刷所が再開されしだい刊行される予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、スペインの日本研究者、日本のスペイン研究者がお互いの研究対象を拡張することによって独自に発展してきた「日西交流史」、あるいは日本史研究者が在外欧文史料に分析対象を拡張することによって独自の分野を築いてきた「日本キリシタン史-日欧交渉史」の蓄積が、近世初期のグローバル・ルネサンス研究において有する重要性が国際的に認知されたことである。社会的意義としては、日本史の特殊な一領域と見なされがちであった「キリシタン」の歴史が、キリスト教的普遍主義の歴史に与えたインパクトを指摘したことである。

研究成果の概要（英文）：Through advancing international research abroad (mainly in Spain and China), the purpose of developing international collaborative research regarding textual studies on "The Christian Century in Japan" was significantly achieved. I organized two international conference (one in Madrid and another in Guangzhou), participated in several other conferences in those countries, and in an international workshop in Tokyo. In addition, I delivered lectures in Sun Yat-sen University and in Guanzhou University of Foreign Studies for both graduate and undergraduate students. Due to the global pandemic, the process of finishing a book that summarized my research was extended a few months, and it should be printed soon as the Spanish press restarts work.

研究分野：スペイン文献学、思想史、インテレクチュアルヒストリー、日本キリスト教史

キーワード：キリシタン 東西交渉史 思想史 グローバル・ルネサンス イエズス会 スペイン文献学 インテレクチュアル・ヒストリー 日本キリスト教史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

本国際共同研究のもととなった研究課題（2013～2016年度、課題番号25770029）は、イエズス会の歴史的遺産の解明を目的としたイエズス会研究高等研究所(Institute for Advanced Jesuit Studies、米ボストン・カレッジ)の設立時期と並行して遂行された。以後同研究所によって、オランダのプリル社の「イエズス会研究」シリーズが主宰され、モノグラフや学術雑誌が数多く刊行されてきた。その中で、近世イエズス会宣教史研究は、同会の世界宣教を通じたカトリック・ヨーロッパの思想文化の非キリスト教文化圏への「影響」の研究から、同会の非キリスト教文化圏における宣教活動がヨーロッパ思想の世俗化へあたえた「影響」の研究をも多分に包摂するようになった。

本邦においては、同会の日本宣教史は「キリシタン史」の名でつとに知られており、十分な研究蓄積がある。思想史という観点からいえば、海老沢有道らにより、日本の原史料と欧文原史料双方を駆使できるという優位的な立場から、高度な研究が発表されてきた。しかし、海老沢がリードしてきたキリシタン史の思想的な研究自体が国内で十分に継承されているとはいえない上に、上述のような国際的なトレンドに日本の高度な先行研究が有機的に接合しているとはいえない。その結果として、日本の学界においては既知の史料であるにもかかわらず、海外で「新発見史料」として紹介されたり、またその逆の事態が生じたりしている。研究者のグローバル化が進み、「キリシタン史」が教内研究者や日本人研究者の専売特許ではなくなった以上、近世の古文書を含む日本語文献と、ラテン語を含む南欧文献の両者を扱い、なおかつ日本語を含む多言語で闊達に発表できる海外の若手研究者との共同作業・情報交換を行う場の創成が急務であった。

## 2. 研究の目的

本国際共同研究の目的は、キリシタン文献のテキスト・クリティークという具体的作業を通じて、日中欧のキリシタン文献研究者の互恵的ネットワークの構築、海外への発信、そして国際的な学会の運営の経験を積むことである。キリシタン文献の編纂過程は、ヨーロッパにおける人文学的学識（ヒューマニズム）の伝播の軌跡と言い換えることができ、その伝播の過程を実証的に明らかにするためには、当時の来日宣教師が参照可能であった当時のヨーロッパの神学書やミサ典礼書、説教集等に関する書誌学的・文献学的知識が必須である。本研究は、すでにこれらの知識と鍛錬に長けた海外の共同研究者・研究協力者との共同作業を通じて、日本史を補完する一次資料としての価値に注目されてきたキリシタン文献を、グローバル・ヒストリー研究の基礎的資料として再検討する場を創生する。

## 3. 研究の方法

本研究は、キリシタン文献のテキスト・クリティークによって、テキストの狭間（＝編纂や翻訳の過程）で取捨選択・付加削除・改編された内容を焙り出すという地道な作業を基礎とし、それによって思想的揺籃期ともいえる近世初期の東西両テキストが置かれている、歴史的コンテキストの実証的な理解を目指すことにより、思想史研究に貢献する。いわゆる「キリシタン版」を中心とする当時の信心書・教理書を、その欧文原典にさかのぼって対照・分析するにとどまらず、当時のヨーロッパで編纂された「殉教録」「宣教報告書」と、その情報源となった史料との対照など、カトリック教会・カトリック教国がこぞって出版した日本宣教のヒストリオグラフィーの類にも分析の対象を広げた検討を行う。テキスト内容の取捨選択を行ったヨーロッパ人宣教師や聖職者が置かれていた、カトリック教会の複雑な思想的状況を逆照射する「動的な」テキストとして読むという意味において、キリシタン文献が有する、日本史を補完する一次資料としての価値に注

目する従来の「日本キリシタン研究」とは方法が異なる。

共同研究先のマドリード自治大学には良好な文化関係を通じて日本研究を志す者が多く、フランシスコ・ザビエルに代表される中近世日西関係史を研究テーマに選ぶ若手研究者が多い。また中山大学は、共同研究者の指導の下、ラテン語の神学稿本を扱う若手研究者の台頭が顕著である。彼らの助力を得るのみならず、彼らに近年の日本語による良質な研究成果を教示するという互恵的なチームを創設し、国際共著率、国際的研究環境の改善を目指す。

#### 4. 研究成果

主な成果としては、共同研究者とともに上記の2大学で開催した二度の国際会議が挙げられる。マドリード自治大学においては、歴史・文学・美術・言語の4分野を核とし、いわゆる「キリシタン時代(The Christian Century in Japan)」「日本におけるイベリアの世紀(El Siglo Ibérico de Japón)」研究の最前線が問われた。当該時代を欧文史料から研究する研究者と、日本史料から研究する研究者との激しい議論が交わされた。日本とスペインはこれまで、友好的な二国間関係を反映して、「日西交渉史」を銘打つ多くの共同研究・共著を生み出してきたが、近世初期のグローバル・ヒストリー、またグローバル・ルネサンスという枠組みの中で日欧交渉史を考えると、「スペイン」「日本」というアクターを前提とすることの欠陥が様々に指摘された(布教保護権をめぐるローマ教皇庁の存在や、宣教師の祖国意識、ラテン語や翻訳を通じたヨーロッパ内での知識の共有、漢訳教理書の影響、等々)。中山大学では、伝統的ないわゆる「西学東漸」研究における「東」に含まれる中国と日本との相関関係が実証的に議論された。日一中それぞれの西学受容史における類似点や比較の抽出のみならず、具体的な日-中文献における影響関係が少なからず指摘された。

国際会議後の議論の包括にも多くの時間を割いた。本研究が目した諸テキストの編纂過程(西洋古典、聖句、説教集等の解釈や和訳をめぐる困難、ヒストリオグラフィーの創成)は、人文学的学識(ヒューマニズム)の鍛錬を生んだ。そしてそれは、ある種の高度な言語的操作を可能とする能力を作者の間に生み出した。このことは、当時のヨーロッパにおける「蓋然説」Probabilism(蓋然説:自由か法かの倫理的な二者択一を迫られた場合、前者の意見が真に蓋然性を持つならば、それを行うことが正当化され得るという考え方) dissimulation(隠匿:不都合な事実を目的を鑑みて隠匿すること)、mental reservation(内的留保:自分の発した言葉に、その言葉のもつ自然な意味とは別の意味を自己の内面で付加すること)などと称して国際的に近年注目される議論と接合し得る。ここから、日本におけるキリスト教宣教が近世ヨーロッパの思想的変遷に与えた影響が実証的に指摘できるとも考えられ、今後の大きな課題として指摘された。

国際会議のみならず、共同研究者の来日と連続講義、また2019年10月に行われたサンフランシスコ大学リッチ研究所主催の国際ワークショップ“Historical legacies of Christianity in East Asia”に、世界から集った若手研究者のシニア・メンターとして研究代表者が招待を受けたことも、今後裨益するより強固な国際共同研究体制の構築に役立った。総じて、国際的なキリシタン文献研究者の互恵的ネットワークの構築、海外への発信、そして国際的な学術会議の運営の経験を積む、という本国際共同研究の目的は大いに達成された。

2020年に入ってから国際情勢の急変により、取りまとめとしての編著は編著者(研究代表者と研究協力者の共編)による校正済みの段階で中断しているが、印刷所の再開を待つのみとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 折井善果	4. 巻 12
2. 論文標題 宣教と“賢慮”：A・ヴァリニャーノの“適応”主義のヨーロッパ的源泉	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宣教学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 60-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 ORII, Yoshimi
2. 発表標題 Introductory Remarks: Japan and Spain's Golden Age in a Global Context
3. 学会等名 Japon y El Siglo de Oro Espanol en un Contexto Global. Universidad Autonoma de Madrid. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ORII, Yoshimi
2. 発表標題 Creationism vs. Yin-Yang Dualism: A critique of Neo-Confucianism in Christian apologetic literature in Japan during the 16th-17th centuries
3. 学会等名 International Conference on Confucianism and European Civilization: The Encounter between Western Studies and Neo-Confucianism in the Ming and Qing Dynasties (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ORII, Yoshimi
2. 発表標題 Accommodation of Jesuit devotional literature in 16-17th century Japan: The case of Gaspar Loarte 's Instruction and advice for meditating on the Passion of Christ (1570)
3. 学会等名 International Conference of the Western learning between China and Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ORII, Yoshimi
2. 発表標題 La imprenta jesuitica en Japon de los Siglos XVI y XVII: tendencias recientes en la investigacion bibliografica y en la historia intelectual
3. 学会等名 Jornada Internacional: Portugal y Oriente, Departamento de Filologia Moderna GIR en Estudios Portugueses y Brasilenos, Catedra de Estudios Portugueses, Universidad de Salamanca (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ORII, Yoshimi
2. 発表標題 El impacto del argumento teleologico ciceroniano en el discurso pro- y anti- cristiandad en el Japon premoderno
3. 学会等名 Contactos entre las tradiciones literarias grecolatinas y orientales: Grupo de Investigacion en la Recepcion de las Literaturas Clasicas, Universidad de Valencia (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 齋藤晃、ギジ エルモ・ウィルデ、折井善果、新居洋子、中砂明德、真下裕之、岡田裕成、小谷訓子、岡美穂子、網野徹哉、鈴木広光、王寺賢太	4. 発行年 2019年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 554
3. 書名 「「奇跡」と適応 - イエズス会宣教師による「理性」概念の形成と日本」齋藤晃編『宣教と適応：グローバル・ミッションの近世』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="http://www.mariajesusamora.es/congreso-japon-2019/">http://www.mariajesusamora.es/congreso-japon-2019/</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	サモラ カルボ マリア ヘスス  (ZAMORA CALVO Maria Jesus)	マドリード自治大学・文献学部・教授	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	メイナード ティエリー  (MEYNARD Thierry)	中山大学・哲学系・教授	